

JIM-NET 便り

2022 9月号

発行：2022年9月30日

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية



目次

JIM-NET が支援するイラクの病院 (齊藤亮平)	P2
JIM-NET が支援する難民キャンプ (牧野アンドレ)	P4
イラクとシリアの子どもたち絵画展～ JUSTPEACE! (崔麻里)	P6
なわとび共同支援を実施 (ROPEACE/ 片山弘之)	P7
カマタのつぶやき /Coffee for Peace! 紹介 / チョコ募金デザイン発表	P8

JIM-NETが支援する イラクの病院

【中央小児教育病院 (バグダード)】

首都のバグダードには、ティグリス川を挟んで東西に1ヶ所ずつ公立のがん専門病院があり、多くのがんの子どもたちはこの2ヶ所の病院で治療を受けています。JIM-NETはその内の一つ、中央小児教育病院 (CTHP) 内に事務所を構えており、主に貧困患者支援や院内学級を実施しています。

中央小児教育病院には3つの小児がん患者病棟があり、合計108床もある大きな病院です。がん治療だけでなく内科、耳鼻科、整形外科などがある総合病院ですが、検査機器が不足しており、がんの有無を診断するPET検査も受けることができないため、検査が必要な患者は外部の検査機関で1,000USDほどの費用を払って検査を受ける必要があるなど、患者にとって大きな負担となっています。

建物自体も老朽化が進んでおり、設備の劣化も激しい状況にあります。いくつかのベッドは壊れ、エアコンも故障し、割れている窓もあります。50℃を超える夏場であっても、患者はベッドの上についた扇風機のみで過ごしています。

病院内には、患者のための娯楽施設や患者家族への精神的なケアをするサービスがなく、JIM-NETが継続してプレイルームの提供や患者家族へのケアを行っています。がんや治療に対する不安、検査代や経済的な相談など、患者家族のみならず常に患者や患者家族に寄り添って励ましています。



市内中心部ティグリス川の西側に位置する中央小児教育病院



患者数も多く、常に院内は混雑しています。



設備は老朽化が進み、50℃を超える夏でも冷房が使用できません。



検査機器は、メンテナンスが行き届かず、使用できないこともあります。



患者や患者家族をケアするスタッフ・アブサイドとラナ。

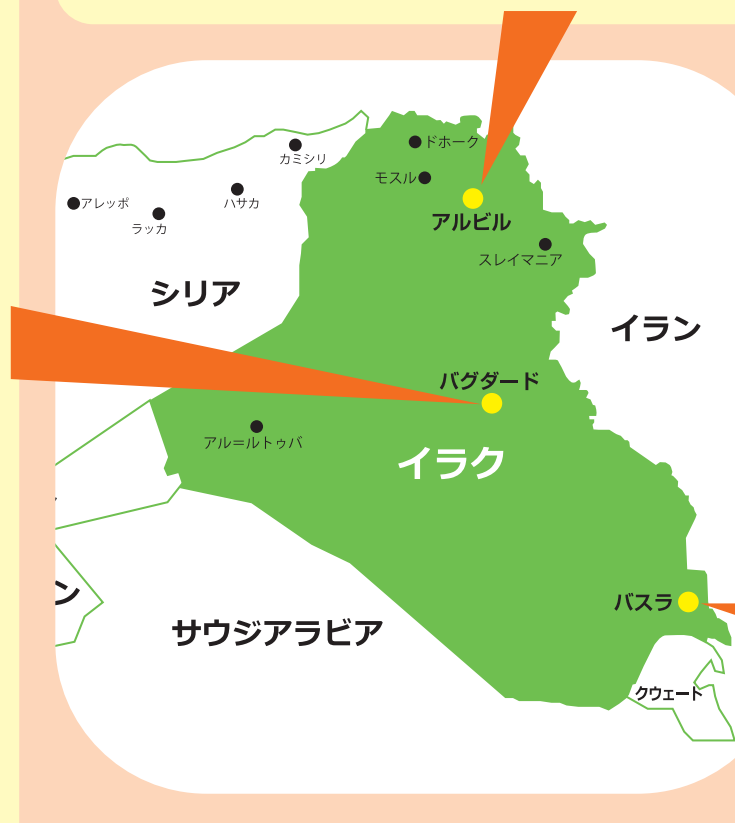
【ナナカリ病院 (アルビル)】

ナナカリ病院は、北部クルド自治区アルビルの中心地にある血液疾患を主とした公立の専門病院で、2004年に建設されました。診療科は小児科と血液内科で、病床数は成人・小児合わせて140床あります。小児病床は32床で、小児科では、1日に約40人がフォローアップのために病院を訪れています。

病棟編成は女性・小児病棟と男性病棟に分かれ、その他病棟以外に、血液センター、薬剤部、救急、外来が機能しています。旧病棟は老朽化が進み、現在は血液センターや管理部、また一部の検査のみに使われ、2013年に完成した新病棟へは数年間の移行期間を経て、現在は全ての患者を新病棟で受け入れています。



ナナカリ病院は、地元のクルド人の患者の他、中



中央政府地域からの国内避難民やシリア難民の患者も多く受けて入れています。

2016 年頃からはイスラム過激派 IS による破壊や攻撃が激化したモスルから、大勢の患者が運び込まれ、一時は病院機能が麻痺しました。モスルから 80km ほどしか離れていないこともあり、モスルで治療を継続できないがんや血液の病気の子どもの受け皿となるなど、地域の情勢に左右されることも少なくありません。

2019 年に完成した JIM-NET ハウスは、イラクでは初となる心理社会的サービスに特化した施設で、開所後は多くのメディアにも取り上げられ、病院や協力団体である Kurdistan Save the Children と連携しながら患者や患者家族支援を拡充しています。(JIM-NET ハウスは、外務省「NGO 連携無償資金協力事業」の助成を受けて作られました。)



小児科外来の待ちスペースは、常に多くの患者と患者家族で混みあっています。



建物がまだ新しく、入院病棟も広々としています。



クルド自治区にあります。シリアやイラク中央政府地域からも多くの患者が集まります。



JIM-NETハウスの隣が病棟になっており、小児病棟はこちらの3階に。

【バスラ子ども病院（バスラ）】

南部の都市バスラの市中心街より車で 15 分ほどの場所に位置するバスラ子ども病院は、2010 年にアメリカの支援により建設されました。小児がん患者の治療する病院は近隣の県や都市にもないため、バスラ以外からもナースリーヤ、アマーラ、サマーフなどから沢山の子どもたちが治療に訪れています。

病床数は 125 床で、2021 年の新規患者数は約 220 名、一日に約 150 ～ 200 人が治療や検査、フォローアップのためにこの病院を訪れています。外来と入院患者に対して放射線治療と化学療法を実施していますが、特に放射線治療を行う病院は少ないため、常に混雑しています。

建物自体は新しいのですが、近年では CT や MRI、その他検査機器の故障も目立ち、病院に対する予算不足のため、すぐに修理をすることができないこともあり、検

査に支障が出ることも珍しくありません。病院の敷地内には、遠方から来る患者家族のための宿泊場所（男女別）があり、長期に及ぶ入院に付き添う患者家族が寝泊まりをしています。プレハブの簡易的な施設ですが、近隣に宿泊施設もないため、患者家族にとっては必要不可欠な施設となっています。

JIM-NET は、開院当初から院内学級を入院病棟で開いており、現在、この病院で過去にがんの治療を受けていたスタッフ 2 名が、子どもたちへの学習支援や心理社会的支援を行っています。また患者家族へのケアも同時に行っており、患者や患者家族の大きな支えになっています。



病院長のウサマ医師は日本での研修経験もあり、大の日本好きです。



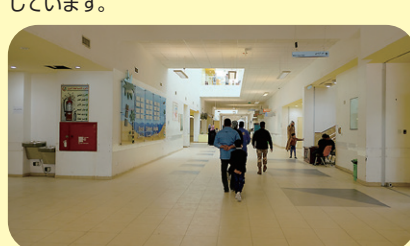
JIM-NETで以前支援していたスース（左）とガディール（右）。院内学級で子どもたちのケアをしています。



市内郊外に位置するバスラ子ども病院



患者家族が宿泊するための簡易施設。小さなキッチンもついています。



エントランスの様子。広々としていて建物もまだ新しい。

JIM-NET が支援する難民キャンプ

今年度、JIM-NET ではイラク国内で 5 カ所のシリア難民キャンプと、国内避難民キャンプを、シリア国内で 4 カ所の国内避難民キャンプを支援しています。ここでは支援している計 9 カ所のキャンプと、その生活状況などを紹介します。

難民：国境を越えて、助けを求めて国外へ逃げた人々のことです。

国内避難民：助けを求めて、国内でより安全な場所に逃げた人々のことです。

JIM-NET が支援をするイラクの難民キャンプ

1 ダラシャクラン難民キャンプ

2013 年に開設されたダラシャクラン難民キャンプは、シリア人約 11,000 人が暮らす難民キャンプです。JIM-NET はこの難民キャンプ開設当初から支援に入っており、当初は医薬品や超音波検査機などを、現在は妊産婦さんのワークショップや新生児のための無乳糖粉ミルクの支援を続けています。



2 カフルゴスク難民キャンプ

アルビル市内から車で約 50 分の所に位置するカフルゴスク難民キャンプ。約 8,000 人が暮らす同キャンプに対し、JIM-NET は過去に超音波検査機を支援し、現在もメンテナンスやその他医薬品の支援を行っています。



3 シャリヤ難民キャンプ

今年度から支援に入っているシャリヤ難民キャンプは、ドホーク県西部に位置するヤジディ教徒の人たち約 13,000 人が暮らしています。過激派組織 IS に迫害され、現在も治安が不安定なことから多くのヤジディ教徒の人たちが故郷に帰れていません。JIM-NET ではパートナー団体と協力し、キャンプ内で望まない妊娠を防ぐための活動を含む家族計画支援を行っています。

4 ハンケ難民キャンプ

シャリヤ難民キャンプよりさらに北西部に位置するハンケ難民キャンプは、ヤジディ教徒の人たち約 14,500 人が暮らしています。シャリヤ難民キャンプ同様、避妊具の支給や性教育など、家族計画支援を実施しています。



5 ジェダアキャンプ(リハビリテーションセンター)

ニナワ県カイヤーラ地区に位置するジェダアキャンプ(リハビリテーションセンター)は、シリアのアルホール難民キャンプから帰還したイラク難民の人たちを一時的に受け入れるキャンプです。現在は約 3,000 人が暮らしていますが、今後、帰還民の増加に伴い人口が増える見込みです。JIM-NET ではパートナー団体と協力し、同キャンプに対して医薬品の支援を実施しています。



JIM-NET が支援をするシリア国内の難民キャンプ

6 アルホール難民キャンプ

シリア北東部地域、イラク国境に近い場所に位置するアルホール難民キャンプは、約 30,000 人のシリア国内避難民とイラク難民、また過激派組織 IS の家族約 33,000 人が収容されてます。キャンプの中は、治安の悪化とともに生活環境も悪く、支援のニーズは未だに高いままとなっています。JIM-NET では、クルド赤新月社(KRC)を通し一般医薬品の支援を数年ほど継続しています。避難民については帰還プログラムも進められています。



7 ワショカニ難民キャンプ



ハサカ市の郊外に位置するワショカニ難民キャンプは、2019年のトルコ軍による侵攻から逃れたシリア人たちが暮らす国内避難民キャンプです。人口は14,000人ほどですが、最近のトルコ軍のさらなる攻撃を受け避難民は増加し、受け入れの限界を迎えています。同キャンプは国連の支援が入っており、地元自治体やクルド赤新月社の支援に頼っている現状です。市内からも離れており働き口もなく、キャンプ内では貧困に喘ぐ人が増えています。

8 サリカニ難民キャンプ

ワショカニ難民キャンプ同様、ハサカ市郊外に位置するサリカニ難民キャンプには、約8,500人の国内避難民が暮らしています。こちらでも避難民が増えており、今後は10,000

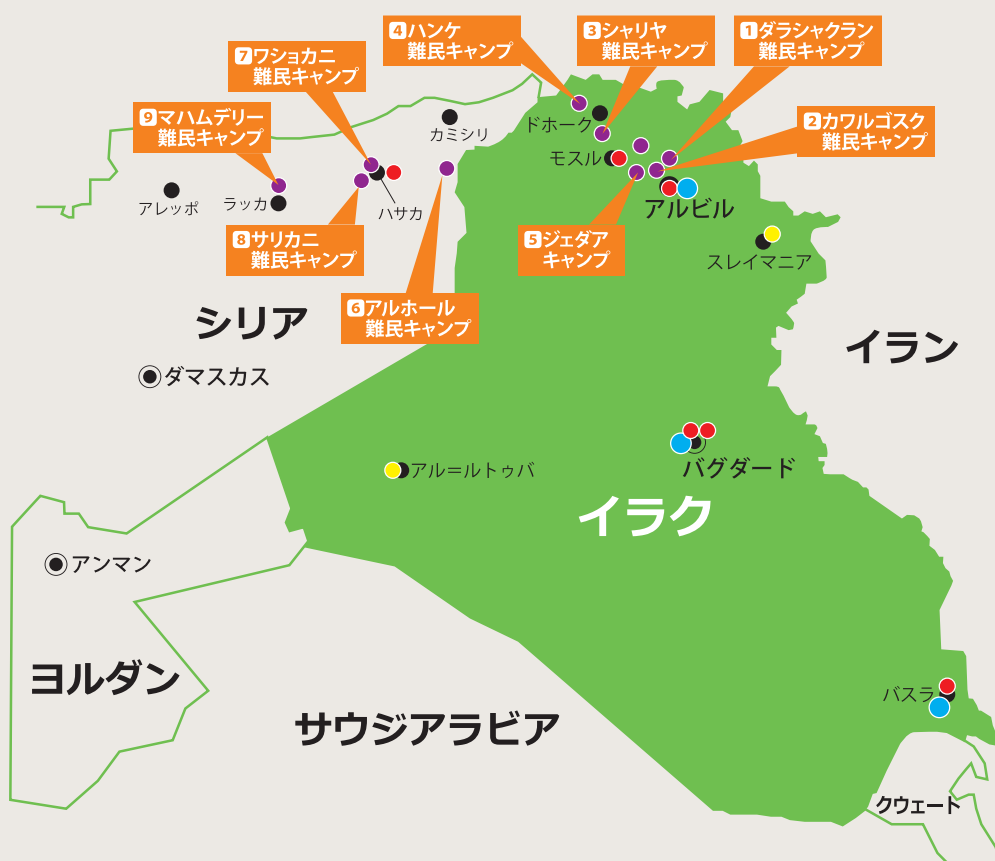


人を超すと見られています。JIM-NETでは、クルド赤新月社を通して医薬品の支援を行っています。



9 マハムデリー難民キャンプ

シリア北東部ラッカ市の郊外に位置するマハムデリー難民キャンプは、シリア紛争やISから逃れた人たちが暮らすキャンプです。アレppoやホムス、デリゾールなど様々な地域出身の人たちが一緒に暮らしています。約8,500人が暮らす同キャンプは、2019年に開設されたばかりで、未だに支援ニーズの高い状況が続いています。JIM-NETではクルド赤新月社を通して医薬品の支援を行っています。



イラクとシリアの子どもたち 絵画展 ～JUSTPEACE!

昨年の絵画展から一年が経ちましたが、相変わらず続くコロナ禍の状況下での開催となりました。6月以降、新型コロナウイルスの拡大がかなり身近に迫り、準備や会期中の対応人数も限られましたが、お陰様で盛況のうちに会期を終えることができました。

春から初夏にかけて JIM-NET ハウスと東京事務局がオンラインで zoom ワークショップを開催しました。今秋にご紹介するチョコ募金の缶のデザインは、その時に子供たちが描いた絵が活用されています。今回もアルビル、バスラ、バグダードの各院内学級で集められた絵を展示しました。実は、展示では㊞でチョコ缶に使われる原画もご紹介したのですが、数名の方々から「この絵が好きです」「チョコ缶にしたら可愛いですね!」との嬉しいご感想も頂き、心の中では「チョコ缶になりますよ!」とお答えしていた次第です。

会場では様々なグッズも好評でしたが、中でも難民キャンプで暮らすシリア難民女性たちが取り組んでいる刺繍グッズには大歓声が上がりました。昨年9月からアルビルでスタートした刺繍ワークショップでは、女性たちが思い

いの図柄を化粧ポーチやくるみボタン、ブローチに丁寧に施しています。麦、牛、羊、花、星座、お鍋…。日本ではあまり見られないデザインばかりで、世界にひとつの手作りです。ポーチをお買い上げ下さった女性から刺繍された牛がマスクを着用していること教えて頂き、改めてイラクでもコロナ禍にあることに気付かされました。

刺繍グッズの展示台前には常に来場者の方々が立ち止まってくださり、その様子はまさに「宝探し」。女性だけでなく、男性の方々も職場でのプチギフトや御礼にと（おひとりで20個お買い上げの方も!）お求めくださったことも嬉しいサプライズでした。

刺繍が趣味の方、中学校 / 高校で家庭科や刺繍と触れておられる先生方、手づくりグッズ大ファンの方々からは、素材や値段、ファスナーの向き等々、貴重で興味深いアドバイスも頂戴しました。現地では、アドバイスを活かして改善を重ねて作品作りを進めていきます。次回のイベント会場でご披露いたしますので、どうぞ楽しみに!

展示作品には点滴の管や髪の毛が抜け落ちた様子も垣間見られましたが、どれもが思い思いに描かれた感性溢れるものばかりです。

今回の絵画展の開催にあたり、白血病を乗り越えたハウラから届いたメッセージが忘れられません。

「闘病中は、絵を描くことで病院で過ごした辛い時間を忘れていました。絵を描くことが救いだったんです。

私たちの絵に興味を持ってくださること、とっても嬉しいです」



多くの来場者で賑わうギャラリー。



刺繍されたポーチにひつじのマスク姿が!



子どもたちも笑顔で参加しました！



エハラスとサーラ姉妹のものがたりに触れて頂くことができました。

JIM-NET×ROPEACE PROJECTによる なわとび共同支援を実施！

ROPEACE 片山弘之



今年の3月に、JIM-NETとROPEACE PROJECTの2団体の協力により、なわとびと長縄の計32本を、JIM-NETハウスの子供たちとスタッフに届ける支援を実施することができました。

ROPEACE PROJECTは、世界の子どもたちへ「なわとび」を直接届ける活動をしている団体です。これまでに、約5,000本のなわとびを、ネパール・ベトナムの学校を中心に約20校の子供たちに支援しています。子どもたちに届くなわとびは、日本国内の小学校を中心に全国から寄付で集められたものです。

3月28日(月)に、JIM-NETハウスと日本をインターネットでつなぎ、オンラインイベントを開催しました。JIM-NETハウスの子供たちとスタッフは、怪我のリスクを抑えるために芝生に移動してなわとび・長縄を跳んで遊びました。子どもたちは、上手く跳べなくても、どの子も楽しそうで、何度も笑顔でチャレンジしていました。また、JIM-NETの現地スタッフも子供

たち以上に、無邪気に遊んで楽しんでいる様子も見られました。オンラインイベントには、

JIM-NETハウスの「ジャン君」と「シマちゃん」が出演し、実際になわとびで遊んだ感想について聞かれると「とっても楽しかった!」と話していました。

また、今回のなわとび支援活動の一環として、子どもたちはキーホルダー【ピースロープ】作りをしました。この【ピースロープ】は、これまで弊団体になわとびを寄付下さった方への感謝の気持ちと「平和」を願ったキーホルダーになります。そのピースロープと共に、サンクスレターや感謝状が支援者・団体に送られました。

今後もJIM-NETとROPEACE PROJECTの協力のもと、国籍・文化を超えた交流と、子供たちの成長の機会を広めていけたらと考えています。

●2022年3月28日オンラインイベントの様子YouTube配信

<https://youtu.be/04TwC0CllrU>

●ROPEACE PROJECT 公式HP

<https://ropeace.jp/>



カタのつばき

紙芝居『かまた先生のはだかのおうさま』が、童心社から発売されて半年が経ちました。アンデルセンの「裸の王様」を鎌田流の新しい物語にしたものです。「バカモノと役に立たないものには見えない洋服」を売りつけるサギ師にだまされた王様。自分の愚かさに気付くと、王様の座を賢く国民思いの弟に譲って、自分は旅に出て、新たな生き方を始めます。

紙芝居の第1作は『かまた先生のアリとキリギリス』（童心社）。絵はスズキコージさん。4年前に刊行され、JIM-NETの支援者の方々が、この紙芝居朗読を中心にしたチャリティーイベントを開催くださったこともコロナ禍前のことで懐かしいです。この作品は、五山賞特別賞をいただきました。『かまた先生の裸の王様』の絵は、松成真理子さん。『まいごのどんぐり』（童心社）という絵本で児童文芸新人賞を受賞しました。その後、絵本や



紙芝居『かまた先生のはだかのおうさま』

紙芝居をたくさん書いています。

本作は第2作。王様をやめて旅に出た「はだかのおうさま」は、自分ができる「役に立つ仕事」を探します。人にはそれぞれに合った生き方があります。大事なことは正直であること、勇気を持つこと、真実を見抜く力を身に付けること。そんなメッセージを込めました。

出口の見えないコロナ禍が続き、心が苦しくなることも多いかと思います。ぜひ、紙芝居「かまた先生のはだかのおうさま」（童心社）を子どもたちに読んであげてください。そして大人の皆さんにも楽しんで頂ければ嬉しいです。

Coffee for Peace!



お陰さまでドリップコーヒーも2年目となりました。

昨年は温かなご協力を頂き、チョコ募金と Coffee for Peace! 対応作業に追われました。今回はそんな事情を踏まえ、2種の絵柄で1セットのご紹介です。8月にイラク入りした長谷部からは『黄色い鳥と花』の今は亡きエハラスとサーラのご両親に二人の作品をアレンジした絵と写真、そしてドリップコーヒーを手渡すことができました。今は大学生となったハウラが白血病の治療中に描いた『仲良し猫』とともに手に取って頂ければ幸いです。



『チョコ募金2023』デザイン発表

3月から徐々に進めていたチョコ募金の準備ですが、9月になり、本格的に始動しています。皆さまには、いち早く今年のデザインをお届けいたします！

今年のデザインはこちらです♡



お申込みの受付は、11月14日（月）からを予定しております。

今年も子どもたちの可愛い絵と美味しい六花亭のチョコレートをどうぞお楽しみに！

